

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 112 2019年2月2日発行



チェルノブイリ 33 年・福島 8 年救援キャンペーン

講演 崎山比早子さん

「福島原発事故から 8 年

福島における小児甲状腺がんの多発」

4月21日（日）ココネリホール（東京都練馬区）

19:00 開演（18:30 開場）



☆上記イベント開催のための賛同金を募集しています。

一口 1,000 円 郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

目次

- p.2 広河隆一氏に関する報道について
- p.3～4 2018 年 12 月支援報告／2019 年支援計画
- p.5 2019 年 4 月 21 日イベント詳細
- p.6～8 2018 年 8 月ベラルーシ家族訪問
- p.9 黒部ドクター
- p.10 セルゲイ君の里親になって
- p.11 2018 年 12 月報告会
- p.12～13 チェルノブイリの歌声
- p.14 2018 年決算報告書
- p.15 募金・救援状況
- p.16 事務局から



右写真：2018 年 12 月クリスマス会（ベラルーシ・ゴメリの慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」（詳細は p.3～4）

昨年 12 月末に掲載された記事に関しまして、子ども基金の活動にご支援ご協力いただいているみなさまに多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを深くお詫びを申し上げます。

子ども基金は 12 月 27 日付けで以下の声明をホームページに掲載いたしました。そこで記載しているように、広河氏は 2003 年に基金の代表を退任、2012 年には顧問も降り、その後基金の役職には就いていません。しかし 2018 年カレンダー（2017 年製作）までは氏の写真を使用し、また数年に一度、4 月の救援キャンペーンで氏の講演を行ってきました。今回の事態を受けて、そのような関係を一切断つことにいたしました。

これまでご支援をいただいたみなさまの落胆、お怒り、不信感など如何ばかりかと存じます。私たちも大変衝撃を受けていますが、支援の必要な子どもがいる限りこれからも活動を続けてまいります。

13 頁にはこの件に関してみなさまからいただいたお声をお伝えいたします。

~~~~~

チェルノブイリ子ども基金は 1991 年 4 月、広河隆一氏により設立され、2003 年 7 月まで基金の代表を務めていましたが、その後基金は理事会体制に移行し、広河氏の手を離れています。その後も 2012 年まで顧問として名前を残していましたが、その間も本基金の運営には一切かわっていません。また 2012 年以降は本基金の一切の役職についていません。今回の報道についても、広河氏からは何の連絡もありますが、報道されていることは、デイズジャパンの声明や広河氏の釈明と照らしあわせてもとうてい看過することができません。1991 年以来チェルノブイリ原発事故の、そして 2011 年以来福島原発事故の被災者の、人間としての権利を守るために救援活動を行ってきた広河氏が、その一方で相手の尊厳を踏みにじる行為を繰り返してきたことは決して許されないことです。

チェルノブイリ子ども基金は、設立当初から現在まで、放射能被害に苦しむ子どもたちや母親たちのいのちと人権を守るために、多くの方々の支援に支えられて活動を続けてきました。その皆様の信頼を裏切る創設者広河氏の行動を、子ども基金理事会としても許すことはできません。私たちは今後広河氏が、被害者に対して誠実な対応を取るとともに、氏のジャーナリストとしての理念と照らし合わせて真摯に反省されることを強く求めたいと思います。

放射能によりいのちと健康が脅かされているチェルノブイリと福島の子どものためにはこの問題は全く関係ないことであり、私たちは支援の手を休めることはできません。今後はより一層、人間の尊厳を大事にすることを肝に銘じて支援活動を続けてまいります。皆様のご理解とご支援を心からお願いしたいと思います。

2018 年 12 月 27 日  
チェルノブイリ子ども基金理事会

# 2018 年 12 月支援報告／2019 年支援計画

みなさまの募金のおかげで 2018 年もチェルノブイリの子どもたちへの支援活動を行うことができました(決算報告は 14 頁をご覧ください)。ご支援に対しまして心よりお礼を申し上げます。2018 年 12 月の支援の報告と、2019 年の支援計画をお知らせします。引き続きご支援いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします

## ★2018 年 12 月の支援報告

### <ベラルーシ> 慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」(ゴメリ市) クリスマス会

毎年行われているクリスマス会には、団体の会員の病気の子どもたちが参加します。団体スタッフと親たちが協力して準備をし、子どもたち、親たちの大切な交流の場となっています。2017 年同様、同会に対し、果物・食料品の購入費の一部として 600 ドルを支援しました。以下は、代表のボホモワ・ワレンチーナさんからの報告です。

「12 月 25 日、ゴメリ市とレチツァ市の 2 か所でクリスマス会を開催しました。市内と近隣の村に住む子どもと親たちが参加しました。どちらもあたたかくよい雰囲気と思い出に残る会でした。ゴメリ市の会では、子どもたちに 2 種類のプレゼントと果物が渡されました。親たちがジェッドマロース(サンタクロース)、や雪娘などに扮し、子どもたちを楽しませま

した。小さい子どもたちは積極的に催し物に参加し、賞品のお菓子などを手にしました。みんなでダンスもしました。

レチツァ市の会ではジェッドマロースと雪娘による劇がありました。子どもたち自身も歌やダンスを披露しました。こちらでも子どもたちに、プレゼントと果物、お菓子、乳製品(チーズ、ヨーグルトなど)が渡されました。乳製品はトゥーロヴァという町の、ある団体からのプレゼントでした。

10 人の卒業生(18 歳で成人のため団体を卒業します)には、タオルとガラスのコップが記念品として渡されました。2 か所合わせて 100 人以上の子どもが参加しました。また、経済的に困難な 45 家族には食料品(缶詰、パスタ、ジュース、食用油など)が渡されました。健康上の問題で会に参加できない子どもには、自宅にプレゼントが届けられました。

みなさまのおかげで子どもたちは楽しいク



リスマスを過ごすことができました。どうぞ写真を見てください。みんなの笑顔がそのことを物語っています。私たちスタッフと、両親たちもみなさまにとっても感謝しています」

写真には日本の里親から支援を受けている子どもたちの姿も多く映っています。昨年 12 月、この団体から新たに 4 人の子どもの支援要請が届いています。里親支援にご関心のある方は 8 頁をご覧ください。

## <ウクライナ>

「内分泌研究所」（キエフ市）医薬品・放射線測定器：ウクライナ全土から年間約 1400 人が甲状腺の治療に訪れるこの病院に、患者のための甲状腺ホルモン剤購入費用 17000 ドルと、治療室で使用する放射線測定器購入費用 3000 ドルを支援しました。現地からの報告が届きましたら改めてお伝えします。

**子どもの頃に甲状腺がんの手術を受けたウクライナの女性への支援**：2017 年 6 月号・10 月号ニュースで報告してきたウクライナの D・ユーリャさんに、医薬品（カプレルサ：腫瘍細胞の増殖を抑える薬）購入費用 6000 ドルを支援しました。

ユーリャは 1985 年生まれ。12 歳で甲状腺の手術を受け、その後卵巣、副腎の手術も受け、他の臓器にも影響が出ていました。2017 年 5 月に子ども基金が医薬品購入費用を支援し、一時は腫瘍マーカーが下がったと喜びの連絡がありました。その後また腫瘍マーカーの値が上がり、高血圧となり、心臓の具合も悪く、度々発作を起こすようになりました。2018 年 8 月には、「体調が悪化したが、ウクライナの医師に相談してもど

のような治療をしてよいのか、カプレルサを飲み続けてよいのか明確な答えがない」と連絡がありました。当基金顧問の黒部信一医師を介し、島根大学医学部 大田総合医育成センター特任教授の野宗義博医師にご相談し、「甲状腺がんに対してリンパ節の転移もあるため、今後も服用は必要で副腎腫瘍には影響を与えない。また血圧を下げる薬も必要」というご助言をいただきました。

~~~~~

★2019 年の支援計画

<ベラルーシ>

●子ども健康回復センター「希望」

①「腫瘍病の子どものための保養」

②「甲状腺がんの手術を受けた親とその子どものための保養」

●慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」：この団体に所属する里子の支援。「希望」で実施する病気の子どものための保養費用、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部。

●すでに解散した慈善団体「チェルノブイリのサイン」に所属していた里子支援、元スタッフ（里子支援に関する連絡等）1 名分の給料。

<ウクライナ>

●慈善団体「チェルノブイリの子どもたちの生存」：この団体に所属する里子の支援。スタッフ給料と事務所維持費の一部。

●「汚染地域に住む病気の子どものための保養」：ウクライナ国内の子どもサナトリウムで実施。

***** チェルノブイリ33年・福島8年 救援イベント *****

講演 崎山 比早子さん

「原発事故から8年 福島における小児甲状腺がんの多発」

事故現場には危険が一杯。それなのに政府は有害無益な除染を行い、避難指示を解除、20mSv 帰還政策を強行し、小児甲状腺がんは数十倍に多発していても被ばくの関係は考えにくい、という。市民はなにをすべきか？

2019年4月21日（日）19:00～21:00

会場：ココネリホール（練馬区立区民・産業プラザ3F）

（西武池袋線・西武有楽町線・都営地下鉄大江戸線 「練馬駅」北口徒歩1分）

入場料 予約 800 円 当日 1000 円 （全席自由） 定員 300 名

※予約受付は4/18（木）午後3時まで。定員になり次第お申し込みを締め切ります。

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金／未来の福島こども基金

★講演 崎山比早子

プロフィール：医学博士 千葉大学医学部大学院卒

元マサチューセッツ工科大学研究員 / 元放射線医学総合研究所主任研究官 / 元国会東京電力福島第一原子力発電所事故調査委員会委員 / 高木学校・原子力教育を考える会のメンバー / 3.11 甲状腺がん子ども基金代表理事

★支援活動の報告

「チェルノブイリ子ども基金」事務局長 佐々木真理

「未来の福島こども基金」（報告者：未定）

★フルート演奏 吉原りえ

<お申込み方法>

下記Tel/Fax/E-mail いずれかの方法。E-mail の場合は、件名を「4/21 イベント申し込み」として次の項目をご記載ください。

●お名前（ふりがな） ●予約人数 ●Eメールアドレス ●電話番号 ●郵便番号・住所

⇒ お申込み・お問い合わせ：チェルノブイリ子ども基金

Tel/Fax：03-6767-8808 E-mail：chernobyl1986@jcom.zaq.ne.jp

このイベントのチラシ配布やポスター掲示にご協力いただける方は上記連絡先へご一報下さい。
また、イベント当日のボランティア（受付、物販、会場案内等）も募集しています。

子ども基金は、ベラルーシの慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」(以下、「困難」)を通して里子支援を行っています。甲状腺がんの子どもをもつ母親たちによって設立された団体ですが、今も次世代の子どもたちの支援を続けています。前号に続き、「困難」代表のワレンチーナさんと一緒に日本の里親から支援を受けている子どもを訪問した様子をお伝えします。

B・カリーナ (2013 年生まれ)

ゴメリ州ゴメリ地区ドーブルシ市

回腸節の横紋筋肉腫。生後 11 か月で発病。初めゴメリの病院で手術。その後、ミンスク市の小児がんセンターへ転院。化学療法 3 ブロック、その後 2014 年 12 月に手術。手術後再び化学療法 9 ブロックを受けた。病気は小康状態となり 1 歳 6 か月の時に退院。免疫力が低い状態。現在薬は服用していない。3 か月に一度定期健診を受けている。

カリーナには、兄 1 人、弟 2 人、妹 2 人がいる。母親エレナはカリーナの障害児養育手当と、一番下の娘(2017 年生まれ)産休手当を受けている。父親は、カリーナが病気になった後、家を出て行った。養育手当を支払っていない。カリーナを病院に連れて行くときは、他の子どもたちを母の実家へ預ける。

母親の話。「両親のところでは畑で野菜を作り、家畜(鶏、ヤギ、豚)も育てているから、食べるものはなんとかanaっています。それがなかったら暮らしていけません。カリーナは 2 年間、小児がんセンターに入院しました。いつも病気の子どもでいっぱいでした。前に一緒に入院していた子が亡くなったと知り、ショックでした。周りでは、若い女性の乳がんが多いと感じます。今までどこからも支援を受けたことがなかったから、日本から支援がある

ことを知って驚きました。とてもありがたいです。」

カリーナの母の実家はロシア・ウクライナとの国境にあるクルゴヴェッツ村。チェルノブイリ事故当時、彼女は 2 歳。強い風が吹き、変な匂いがしたことを覚えているという。



弟、母、兄、カリーナ。ほかのきょうだいは外に遊びに行っていた。

E・ソフィヤ (2013 年生まれ)

ゴメリ市

左下顎の線維肉腫。2014 年 3 月に発病。ゴメリの病院からミンスク市の小児がんセンターへ送られ、線維肉腫と診断された。腫瘍を切除する手術と化学療法を受けた。治療は 4 か月間続いた。退院後 2 年間小康状態だった。2016 年 6 月、転移が見つかり、半年間小児が

んセンターで治療を受けた。その後自宅で過ごしている。障害児に認定されている。現在、薬物治療は受けていない。両親は離婚。父親は養育費を支払っていない。

母親オリガ（1984 年生まれ）の話。「急に娘の左下顎辺りが膨らみ始め、ゴメリ市の病院に連れて行くと腫瘍と言われショックでした。2 年後に転移があったのは、左の下顎より上の耳の下辺り。今のところ 3 か月に一度定期検査を受けています。腫瘍のせいで左顎の骨が折れました。左下の歯が 1 本もないため、やわらかいもの、小さく切ったものを食べさせています。発音しにくい単語もあります。保育園には行けず、ずっと家で過ごしていました。同年代の子どもとの交流が必要だと思います。娘は 9 月から保育園に通うのを楽しみにしています。ダンスや歌が好きなので、近くによい教室があれば習わせたいと思っています」

ソフィヤの母オリガはゴメリ医科大学を卒業後、ミンスクの病院で病理医として働いていた。出産後は地元のゴメリに戻った。チェルノブイリ事故当時、オリガは 2 歳。祖母によると、5 月 1 日までは事故に関して何の情報もな

かったという。祖母は当時、地元の店で店員をしていたが、職員向けに保養が実施されることはなかった（※）。オリガは一度だけ 10 歳の時に、イタリアの慈善団体の招待で保養をした。保養はその一度だけだったという。

（※ワレンチーナさんが当時働いていた工場では、職員の中で子どものいる女性は、チェルノブイリ事故後、職場が指定したところへ母子で保養に行ったという。）

Z・ワルワラ（2008 年生まれ）

ゴメリ州ボリシェヴィク村

左目網膜芽細胞腫。2013 年に発病。同年 2 月と 3 月に化学療法を受けた。同年 4 月に左眼球摘出手術を受けた。年に 1 度がんセンターで検査を受け、年に 2 度、義眼の交換にミンスクの病院へ行く。チェルノブイリ事故による障害児認定を受けている。音楽教室で楽器を習っている。教会の日曜学校に通っている。母親と姉の 3 人暮らし。父親は別居。養育費を支払っていない。

母親ユーリヤ（1984 年生まれ）。地区住宅組合連合会に勤務。「ワルワラは健康に問題なく育ち、目の検査でも何もなかった。それが 5 年前、あるときテレビを見ている娘の左目の



母とソフィヤ



ワルワラ、母、姉ヤーナ

中に、白い斑点があることに気が付きました。それがきっかけで病気がわかりました。とてもショックでした。以前娘たち一は緒に地元の空手教室に通っていました。二人とも活発な子だから、体を動かすのが面白かったのでしょう。今は二人とも絵を描くのが好きなようです」姉ヤーナ（2006年生まれ）。近視のため眼鏡をかけている。胃腸の不調がある。ときどき吐き気、頭痛を訴える。歌が得意。

以前は祖父母の家で暮らしていたが、4年前に今のアパートに引っ越してきた。この地区に住んでいる、病気の診断書のある子どもは、学校から年に一度保養に行く権利がある。姉妹は二人とも保養に行く権利があるが、今年（2018年8月時点）はまだ行っていないという。物静かな母親と対照的に二人の娘はおしゃべりで明るく活発だった。2匹の飼い猫を見せてくれたり、絵や写真を見せてくれたり、姉は歌も披露してくれた。母親はこの娘たちの明るさに救われているように見えた。

K・ダーシャ（2002年生まれ）

ゴメリ市

腎芽細胞腫。年に一度ミンスク市の病院に定期検査を受けに行く。チェルノブイリ障害児認定期限は2019年3月まで。甲状腺機能減退症。知能と言語発達の遅れがある。甲状腺ホルモン剤Lチロキシン、その他の薬も服用している。学校の授業についていくのが難しく、言語学（無料。学校から先生が自宅に来る）・心理学・障害学（有料：1時間10ドル）の専門家による補足授業を受けている。運動機能の生理・心理的発達を促すため、絵画教室と手芸教室に通っている。両親、兄、妹と暮らして

いる。兄と妹は水泳選手。部屋にはメダルや賞状が飾られている。

ダーシャは知能と言語の遅れがあり、母は「実際は16歳ですが、10歳の子どもと同じくらいだと思います」という。そんなダーシャを両親、きょうだいたちがあたたかく支えている様子がよく伝わってきた。10年前に訪れたとき6歳だったダーシャは、背も伸びて大人っぽくなっていた。しかし大きな瞳とあふれるような笑顔は幼い頃のままだった。ダーシャは手先が器用で、手芸が好き。部屋にはたくさんの手作りの作品が飾ってある。9年生終了後、両親は地元の芸術カレッジに通わせたいと思っている。そこは障害のある子どもも受け入れていて、ビーズ細工や藁細工などを学んで、職人としての資格を取ることができるという。



母、ダーシャ、妹

【里親制度】日本の里親が一人の病気の子どもに対し月50ドル相当の金額を2年間支援していただくものです。2年後に再度里子の情報をお伝えし、支援の継続・終了を里親の方に決めていただきます。現在63人の子どもが支援を受けています。新たに支援を必要とする子どもの情報が現地団体から届いています。ご関心のある方は事務局へご連絡ください。詳しい資料をお送りいたします。

黒部ドクターのお話し

かつて胃潰瘍はシュバルツの格言「胃酸無くして潰瘍なし」と言われ、その後ストレスが関与していることがわかり、制酸とストレス対策がされていました。しかし今、胃潰瘍の二大原因はピロリ菌と解熱鎮痛剤です。消化性潰瘍患者にピロリ菌除菌をすると再発率は10～20%未満に減少しますが、しなければ59～67%であるといえます。でも胃食道逆流症の治療のためと胃がんの予防のためのピロリ菌の除菌については意見が分かれています。そこで、マーティン・J・ブレイザー（ニューヨーク大学教授、元米国感染症学会会長）の『失われてゆく、我々の内なる細菌』（みすず書房）を紹介します。

古代から胃の常在菌であったピロリ菌は、ヒトに病気を引き起こしながら、同時に私たちを健康にもしています。遺伝子研究でヒトはピロリ菌を10年以上保有しています。しかもピロリ菌と潰瘍を取り巻く多くの謎は残っています。

ピロリ菌の保有率に違いがないのに、なぜ女性に比べて男性に胃潰瘍が多いのか。ピロリ菌は幼少期からヒトに感染しているのに、潰瘍の発症は30代で20年間発症率は高いまま推移するのはなぜか。菌を除去しても再発する人がいるのはなぜか……。昔はほとんどの人が保有していたピロリ菌も、1955年以降に生まれたアメリカ人の保有率は6%以下で、世界中のどこでも減少がみられ、先進国でその速度は速い。社会経済的状況も影響し、貧しい人々ほどピロリ菌を保持する傾向にある。それはなぜか。ピロリ菌はカップル間での感染はなく、母親が保有しないと子どもも保有しないと言う。（私見では、大腸菌は生後すぐには赤ちゃんの大腸にいないのに、48時間以内に住み着くのはなぜでしょうか。）

また胃にピロリ菌は見つからないのに、ピロリ菌の抗体価は高いことがあります。さらに抗生物質で

除菌すると胸やけすること。ピロリ菌を持たない人は、持つ人と比べて胃食道逆流症を発症する割合は8倍も高いという結果が出ました。胃食道逆流症は治療されないまま放置されると、食道組織の障害を起こし、続いて食道腺がんを引き起こします。先進国でまれであった食道がんがいま、非常な勢いで増加しています。

胃酸は大半の細菌を殺しますが、ピロリ菌は胃酸という厳しい環境に適応し、競争相手はいません。ピロリ菌は炎症を引き起こして胃のホルモンに影響を与え、それが胃酸産生のスイッチを「オン」にしたり「オフ」にしたりします。生まれて最初の10年間、胃酸のバランス調整機能は良好である。しかし、年をとるにつれ慢性の炎症が胃壁を覆い始め、ピロリ菌を持った人では、それがより早く広範囲に起こる。胃酸を産生する内分泌腺は短く平らになり、胃酸の産生が減少し萎縮性胃炎になる。結果として胃潰瘍になる可能性は低くなる。よって「胃酸なくして潰瘍なし」という格言は正しい、と。

胃内容物が食道に逆流するとは、酸性度の高い胃酸が食道に障害を与えるということです。ピロリ菌は両刃の剣。年を取ればピロリ菌は胃がんや胃潰瘍のリスクを上昇させます。一方でそれは胃食道逆流症を抑制し、結果として食道がんを予防します。つまりピロリ菌保有率が低下すれば、胃がんの割合は低下するが、食道がんの割合は上昇する。これは「アンフィバイオーシス」という言葉が作り出されて説明されています。「ある生き物が私たちによいことをなす。しかし次の日には、それが不利益をもたらす。あるいはその両方が同時に起こるかもしれない。」ということを指しています。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

ブログ <http://kurobe-shin.no-blog.jp/>

セルゲイ君の里親になって

私がチェルボナ・カリーナの横浜公演に行ったのは、チェルノブイリ事故から10年後の'96年でした。美しい歌声と、将来の夢を語る子ども達の姿勢に感銘し、以来「子ども基金」の救援カレンダーを毎年購入するようになりました。そんな流れから2010年、11年と当時16歳のセルゲイ君の里親になったのです。彼の趣味は年頃らしくロックだったので、誕生日に私はウッドストック（'69 伝説のロックフェス）の赤いTシャツ、娘はロックのCD-Rを作って送りました。予期せぬプレゼントにととても喜んでくれて、赤いTシャツは彼のお気に入りとなりました。

貧しい母子家庭でしたが、何かお礼できることがあれば、というお母様の申し出に、ベラルーシの写真を撮って下さいとお願いしました。初めて送られてきたセルゲイ君の写真はコウノトリ、白馬、猫、教会、雪景色、川に映った木、タンポポの綿毛。どれも美しく絵画的でもありました。彼の母方の御祖母様はシャガールの出身地ヴィテプスクにお住まいです。ひょっとしたら、セルゲイ君にも芸術家の血が流れているのかな、と思わせるようなセンスの良さを感じました。一昨年、200枚以上にも及ぶ写真を見ながら、アルバムに収めているだけでは惜しいように思われ、カレンダー販売を兼ね写真展をやってみよう、と考えました。不思議なことに会ったこともないセルゲイ君の写真は私の絵の世界と遠からず、どこか共通した視点を持っているのです。

12月、横浜の画廊で写真をメインに私の油絵小品も加え「セルゲイ君のベラルーシ」

展をやりました。素人の写真展ということで若干の不安はあったのですが、なんと初日からとても好評。皆さん、ベラルーシの風景や動植物の写真を熱心に見て下さり、魅了されていました。何よりもやって良かった点は、美しい自然がチェルノブイリ事故により一瞬にして汚染地区となり、32年たった今でも子どもたちの健康を蝕むという恐ろしい現実を感じ取っていただけたことでした。見えない、匂わない放射能の怖さを言葉以上に美しい写真は物語っていました。そして、撮影したセルゲイ君が事故後に生まれているにもかかわらず、一時は国のチェルノブイリ障害児に認定されていたということが更に、訴える力を持っていたように思います。

セルゲイ君は今、別れた父親の仕事を手伝い、心理学の通信教育を受け始め、お姉様はポーランドの医大を出て昨年歯科医師の資格を取りました。年末、仲の良い姉弟の写真と共に、満面の笑みを浮かべたお母様の写真がメールで送られてきました。離婚で激やせした9年前とは別人のようです。セルゲイ君が可愛がっている、もと野良犬ジミまで Xmasの帽子を被って楽しそう。遠いベラルーシの一家族のささやかな幸せに出会えて、私の心は温かく、個展では得られない喜びを得ました。

これからも世の中の小さき声に耳を傾け、自分が負える範囲の行動をとっていききたいと思うのでした。

主体美術協会 榎本香菜子



展覧会の案内状 セルゲイ君撮影の写真



会場の様子

報告会 ～2018 年夏 子どもたちの保養・チェルノブイリと福島～

2018 年 12 月 1 日（土）「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」共催、「生活協同組合パルシステム東京」（以下「パルシステム東京」）後援により、報告会を開催しました。当日の参加者は 42 名でした。福島、山形からもご参加いただきました。

前年に続き会場をお借りしたパルシステム東京のみなさまには、事前の宣伝・当日の運営にも多大なご協力をいただきました。冒頭、理事長の野々山理恵子様にご挨拶をいただきました。（※子ども基金が 2018 年 8 月、ベラルーシの保養施設「希望」で開催した病気の子どもたちのための保養プロジェクト費用の一部はパルシステム東京「平和カンパ」よりご支援いただきました。）

ベラルーシの子どもの保養について、子ども基金事務局長の佐々木が報告を行いました。「保養では健康回復とともに、そこで仲間と出会い、心の元気を取り戻す。それが病気に立ち向かう力となる」と話しました。

福島の子どもの保養については、「沖縄・球美（くみ）の里」ボランティアの麻生治成さんが報告を行いました。「数年前に保養者としてきた子どもが高校生になってボランティアとして来るなど、人との繋がりが続く素晴らしさがある。久米島の自然環境の中で子どもたちは心の成長を育む」と話しました。大学 4 年生の麻生さんは球美の里のボランティアがきっかけとなり、2019 年 4 月からは久米島の小学校の先生になります。また、小児科医で「未来の福島こども基金代表」黒部信一さんが「放射能と健康」について講演を行いました。「放射能は心と体のさまざまな病気を引き起こすきっかけとなる」というお話に、保養の大切さが改めて浮き彫りになりました。

受付・物販など子ども基金のボランティアのみなさんにお手伝いいただきました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

～～～～ 参加者のみなさまからの感想 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

◆放射線の影響が子どもたちに大きいことを考えると、大人の責任はますます大きいと思う。チェルノブイリの事故から 30 年以上たつが、保養などで長きにわたり支えてきたスタッフのみなさんに敬意を表します。今後福島にも益々注目していかなければならない。◆これまで断片的に知っていた事柄が、きちんとした一本に繋がった。子どもたちのためにいろいろ考え、動いていきたいと思う。◆チェルノブイリと福島について、現状や保養の必要性について改めて学ぶことができた。未来の子どもたちに何ができるか、真剣考えていかなければならないと思った。◆いろんな人たちが、日本、世界の子どもたちを支えていることを具体的に聞けてよかった。募金するだけでなく、知る事、周りの人々に伝える事が大事だと思った。◆黒部先生のお話で放射線についてよくわかった。◆何故 2020 年オリンピックに向けて（原発事故が）なかったことにする方策に大きな声で私達は反論しないのか、出来ないのか、大きな声を出すと福島の方達に不安と心配を増大させるのではないのか、という危惧も。もっと行動を広げる方法を考えなければいけない、と思った。（続きは 12 頁をご覧ください。）





チェルノブイリの歌声 ～みなさまからのメッセージ～

2018年12月1日報告会「2018年夏 子どもたちの保養・チェルノブイリと福島」参加者の感想 (p.11からの続き)

◆ベラルーシの今の子ども達健康被害の深刻さに驚きました。「沖縄・球美の里」の保養体験プログラムはとても充実しています。ボランティアさんの努力が分かります。

◆福島原発事故の収束が全くはかれていないのに過去のことにされ、避難者の支援をうちきっていることに悲しみと怒りを感じます。チェルノブイリ子ども基金、未来の福島子ども基金のように長く支援が続けられていることは本当にすごいことです。今後も応援しています。

◆ベラルーシ、福島での保養について新しいことについて多くを知れたので非常に良かった。世で知られている放射線の現状と本当の現状の差が分かった。球美の里のボランティアに興味が出たので、調べてみて参加しようと思った。

◆今この国では、情報は自ら取りに行かなければ本当のことを知ることができなくなっています。食品などの放射能について周りの人たちは本当に何も知らず、気にもしていません。山形からお越しの方のお話にもありましたが、将来を悲観して自死される方が後を絶たないこと、若者たちが甲状腺ガンになり夢を諦めなければならないこと、その事実が隠されていることに憤りを感じます。ウクライナやベラルーシの方々に本当に申し訳ない気持ちです。福島、沖縄、まるで日本ではないかのごとく切り捨て、棄民政策です。お金優先で人権を守らない国。いつ自分がそうなるか分からない恐ろしさがあります。信じられないほど皆な他人事です。佐々木さんが毎年現地に足を運び、一人一人から話を聞き、報告してくださるので有難いです。数字ではなく、顔の見える支援が大事だと思います。ウクライナ、ベラルーシ、福島、そこに暮らす一人一人がかけがえのない存在だ、という視点が大切です。

2019年カレンダーご購入、ニュースレターご購入のみなさまからのメッセージ

●毎年カレンダーを作成頂きありがとうございます。おかげさまで、日頃目にしないウクライナやベラルーシの方々が少し身近に感じられます。(東京都Yさん)

●毎年、当たり前のように手元に届いていた救援カレンダーです。お年玉代わりに(?)毎年母からもらっていました。母が亡くなったことをこんな形で実感する年末です。(静岡県Yさん)

●いつもカレンダーの購入ぐらいしかお手伝い出来ずに申し訳ございません。我が家のトイレに飾りチェルノブイリのこと福島のこと、気にかかる気持ちを忘れぬように…と想いを重ねております。(埼玉県Kさん)

●カレンダーが届きました。小型なのもいいですね。保養する子どもたちを微笑みながらページをめくりました。11月(のキャプション)は特に、分かち合える友達がいるということで印象に残りました。お習字も上手ですね。(東京都Kさん)

●(カレンダーの)子ども達の笑顔がステキです。あの爆発事故が無ければ、故郷で思いきり外で遊べたはずなのに。福島子ども達の甲状腺ガンの頻発は新聞で読んで知っています。原発の再稼働には絶対反対です。会報はしっかり読ませていただきます。(神奈川県Eさん)

●チェルノブイリ子ども基金の活動を支えてきたみなさまがどのような想いで2019年カレンダーを作ってくださったのか、と思うと涙があふれます。お働きされてきたすべての方々、そして子どもたちの心と体が守られますよう切に祈ります。(東京都Kさん)

●今回の大きさもなかなかいいですね。写真もきれいです。(愛知県Sさん)

●カレンダーは前の大きさの方がよかった。

●昨年も購入させてもらいました。子どもたちの姿を追い続けたいと思っています。（兵庫県 S さん）

●いつもお便りありがとうございます。心ある写真の数々と、ながい救援活動の積み重ねに、いつも感動しています。（東京都 M さん）

●ミニサイズは、いままでの大きなサイズを見慣れているせいか、可愛らしい感じがします。書き込めるスペースがもう少し大きい方がありがたいのですが、壁に貼るには逆にこのサイズの方が使いやすいかもしれませんね。写真も素敵だと思います！一年間また子ども基金カレンダーにお世話になります。（兵庫県 H さん）

●ニュースレター No. 111 を読み、みなさんのご尽力に頭が下がります。チェルノブイリの放射能被害がこう代々続くことに改めて胸が痛みます。（神奈川県 T さん）

2018 年 12 月の文春報道を受け、これまでみなさまから寄せられたメッセージ

■年の瀬も押し迫って、気の休まらない状態だったのではないかとご推察いたします。お仕事が増えますね。子ども基金の活動は社会的に意義あるものですし、これからも必要だと思っています。引き続き関心を持って、微力ながら協力していきますので、よろしくお願いいたします。（大阪府 T さん）

■報道を知って驚きました。子ども基金に対しては私の思いに変わりはありません。来年もよろしくお願いいたします。（東京都 M さん）

■今回のことがパレスチナ・チェルノブイリ・福島関係者に与えた衝撃は、計り知れません。広河氏のこれまでの仕事は全否定される可能性もあります。彼にセクハラを受けた女性たちへの謝罪・補償・ケアが十分なされることを前提に、広河氏の今後の言動をしっかり見ていきたいと思っています。（大阪府 S さん）

■今回の一件は色々のご対応が大変なことと思います。今回の件には関係なく、支援は継続させていただきます。（東京都 S さん）

■報道には驚きましたが、皆様の活動にあまり大きな影響が出ない事を心から祈っております。お手伝い出来る事が有ればご連絡ください。

（東京都 H さん）

■年末の、広河さんの報道は驚きました。皆さんの驚きや哀しみ、そして対応に追われるお忙しさ…私の想像を遥かに上回るものであろうと思います。お疲れが出ませんように。そして、皆さまの曇らない思いから始まった支援や行動が、途切れず、揺らがず、守られますように。（静岡県 Y さん）

■年末の報道の後、広河氏の写真で構成されているカレンダーは、いくら基金の活動がよいものであってもこれ以上人に勧めることはできないと思い、残部を返品したいとご連絡しました。その間も含め年末にかけて、支援していただいた方々に連絡し、不快な思いをされたであろうことについてお詫びをしてきました。するとある人から「2019 年カレンダーの写真は広河氏じゃないし…」と言われ驚きました。例年広河氏の写真でしたので今回もそうだと思います。「人は人、写真は写真、活動は活動、と分けて受けとめているので大丈夫です」と言ってくださる方も多くいらっしゃいました。そこで思い直して改めてカレンダー支援をお願いすることにしましたので、返品はしないことにします。年が明けてしまいましたのであとどのくらいご協力いただけるかわかりませんが、「花のそそがれるときよりも 石のそそがれるときこそ 私たちは自由の方向に向かって歩いているのだ」という言葉があるそうです。これからしばらくはしんどい時間と取り組みが続くかと思いますが、子どもたちのためにも頑張っていたいただければと思います。しんどい活動の中から実りあるものを生み出していけますように。新しい年が良い年になりますように。（東京都 K さん）

~~~~~  
上記、メールやお手紙でのメッセージの他、「名簿から削除して、今後郵便物を送らないでほしい」、「怒りで一杯です」などのお電話もありました。

**2018年度決算報告書**  
【2018年1月1日～12月31日】

| 収 入<br>項 目      | 金 額        |
|-----------------|------------|
| 前期繰越<br>募金      | 19,539,607 |
| 救援一般            | 9,930,224  |
| 保養費*1           | 2,244,774  |
|                 |            |
| 里子支援*2          | 4,572,450  |
|                 |            |
| 救援キャンペーン        |            |
| 2018年4月イベント     | 477,178    |
| 2018年12月保養報告会   | 20,500     |
| 2019年4月イベント賛同金  | 2,000      |
| 購読料・運営費*3       | 1,463,598  |
| 預貯金利息           | 77         |
| 物販売上            |            |
| 本・ポストカード・CD・民芸品 | 189,370    |
| カレンダー2018       | 538,970    |
| カレンダー2019       | 1,436,700  |
| 小 計             | 40,415,448 |
| 合 計             | 40,415,448 |

| 支 出<br>項 目      | 金 額        |
|-----------------|------------|
| 救援              |            |
| 医薬品・物品          | 3,593,487  |
| 保養費             | 2,980,562  |
|                 |            |
| 団体運営費*4         | 1,039,251  |
| 里子支援            | 4,354,967  |
| 緊急支援*5          | 234,345    |
| ウクライナの女性の治療支援   | 666,420    |
| 派遣費             | 800,697    |
| 送金・為替手数料        | 60,264     |
| 未来の福島こども基金      | 296,843    |
| 救援キャンペーン        |            |
| 2018年4月イベント     | 233,176    |
| 2018年12月保養報告会   | 1,250      |
| 2019年4月イベント     | 72,300     |
| 事務運営費           |            |
| 国際 Tel・Fax      |            |
| 国内 Tel・Fax      | 95,424     |
| 印刷・コピー費         | 48,000     |
| ニュースほか発送費       | 534,681    |
| 人件費             | 1,910,581  |
| 交通費             | 194,999    |
| 事務消耗品費          | 206,603    |
| 事務所費            | 871,268    |
| 広告・宣伝費          | 91,062     |
| 資料・会議費          | 10,510     |
| 国内振込手数料         | 20,912     |
| 物販仕入            |            |
| 本・ポストカード・CD・民芸品 | 29,050     |
| カレンダー2018       | 61,132     |
| カレンダー2019       | 1,056,722  |
| 小 計             | 19,464,506 |
| 次期繰越金           | 20,950,942 |
| 合 計             | 40,415,448 |

\*1 旧振込用紙項目「特別保養費」→「保養費」としました。

\*2 里子支援63人(経費1割、2019年1～6月支援分も含む)

\*3 (株)カタログハウスからの運営費募金100万円含みます。

\*4 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。

\*5 緊急支援6人

  \* 切手、クオカード等2,747円相当も寄贈されています。

  \* カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2018年度のカレンダー収益は112万円でした。

  \* 次期繰越金が多いのは、2018年後半に多額の募金をいただいたためです。

2018年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2019年1月28日

会計監査

監事

鈴木 由利子

監事

清水 玲子



## 募金・救援状況



### ●募金状況 2018年10月～12月、2019年1月 (単位:円)

|         | 10月       | 11月     | 12月       | 2019年1月   |
|---------|-----------|---------|-----------|-----------|
| 募金件数    | 164       | 181     | 170       | 42        |
| 救援寄付金   | 2,732,435 | 576,340 | 3,907,384 | 189,825   |
| 保養費     | 126,000   | 172,050 | 208,750   | 50,065    |
| 里子支援    | 12,630    | 12,540  | 12,540    | 810,100   |
| ニュース購読費 | 46,000    | 70,000  | 52,000    | 12,000    |
| 合 計     | 2,917,065 | 830,930 | 4,180,674 | 1,061,990 |

\* その他、切手、クオカードなどのご寄付をいただきました。

### ●救援状況 2018年10月～12月、2019年1月 (単位:円)

|                            |           |
|----------------------------|-----------|
| <ウクライナ>                    |           |
| ◎子どもたちの生存                  |           |
| 里子支援金 10人 (2019年1～6月分の支援金) | 366,531   |
| 緊急支援 1人 (2019年1～6月分の支援金)   | 33,321    |
| 運営費 (通信費、家賃、スタッフ給料)        | 299,889   |
| 現地銀行手数料                    | 3,332     |
| ◎ウクライナの女性の治療費用             | 666,420   |
| ◎内分泌研究所                    |           |
| 医薬品                        | 1,888,190 |
| 放射線測定器                     | 333,210   |
| <ベラルーシ>                    |           |
| ◎困難の中の子どもたちへ希望を            |           |
| 里子支援 49人 (2019年1～6月分の支援金)  | 1,641,696 |
| 緊急支援 6人 (2019年1～6月分の支援金)   | 201,024   |
| 医薬品                        | 1,340,160 |
| 運営費 (通信費、家賃、スタッフ給料)        | 346,208   |
| クリスマス会 (子どもたちへのプレゼント代)     | 71,019    |

### ♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【10月】日本ベラルーシ友好交流協会【11月】(株)桜井書店 稔台教会 恵泉女学園中学・高等学校 恵泉デー委員会 リサイクルグループカーリーナ 碧南教会【12月】大阪北教会婦人会 ケイ歯科クリニック ストップ・ザ・もんじゅ事務局気付自然環境センター 公益財団法人大阪YWCA 恵泉女学園中学・高等学校 宗教部 千葉友の会 茅ヶ崎フォークダンスを楽しむ会 川和保育園 (株)七つ森書館 中振キリストの教会 (株)鹿王企画 友愛富士見町保育園【2019年1月】松山古町教会 C.S ひばりが丘グレイス教会 日本基督教団田名部教会 (1/23時点)

※子ども基金が現金で支援したものは、現地団体・病院が物品等を購入後、領収書を提出してもらいます。子ども基金は、書類上のチェックをするとともに、事務局スタッフが現地を訪問した際に確認を行っています。



クリスマス会のプレゼントを自宅で受け取った男の子 (2018年12月 ベラルーシ・カリンコヴィチ市)

### ★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1) 郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2) ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 オー九店(ゼロイチキョウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキン

(3) 三菱東京UFJ銀行 支店名(番号): 新宿中央支店(469)

口座番号: 普通 1688367 口座名: チェルノブイリ子ども基金

## 事務局から

КАЛЕНДАРЬ НА 2019 ГОД (33 ЛЕТ ЧЕРНОБЫЛЬСКОЙ АВАРИИ)



2019 チェルノブイリ33周年救援カレンダー

制作 チェルノブイリ子ども基金

### “支援金の振り込み方法についてのお知らせ”

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。

※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容をご連絡いただけますと大変助かります。お手数をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

- (1) 郵便局の口座をお持ちの方：子ども基金の郵便 口座へ直接お振込み

郵便振替口座 00160-4-98316

口座名 チェルノブイリ子ども基金

- (2) 他金融機関の口座から、子ども基金のゆうちょ 銀行口座へのお振込み

店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキューウ 店)

預金種目 当座 0098316

受取人名 チェルノブイリゴモキキン

- (3) 銀行名：三菱東京UFJ 銀行

支店名(番号)：新宿中央支店(469)

口座番号：普通 1688367

口座名：チェルノブイリ子ども基金

### ■2019年救援カレンダー“まだ在庫ございます！”

1部 700円・送料別(6部まで 200円)。

10部以上ご注文の場合は1部 600円(送料無料)。

サイズ縦 30cm×横 21cm(見開き A4サイズ)。

撮影：佐々木真理 / デザイン：川島進デザイン室  
お買い忘れの方、どうぞこの機会にお申し込みください。

■「基金ニュースレター」について 寄付をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。(※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。)

■ボランティア募集 ニュース発送作業(年3回：2・6・10月)：お手伝いいただける方を募集します。どなたでもお気軽にご参加ください。次回予定は6/15(土)午後1時～4時頃まで。ご都合のよい時間帯だけでも大歓迎です。

場所：東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前10時～午後5時。留守の場合は伝言をお願いします。

### ★編集後記★

年末からこのニュースレター発行にかけまして、みなさまからいただいたメッセージに、心よりお礼を申し上げます。おひとりおひとりのお気持ちを深く胸に受けとめ、活動を続けてまいります。病気を乗り越えて生きていこうとしている子どもたちを、これからも支えてください。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局長 佐々木真理)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

※新住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: [chernob1986@jcom.zaq.ne.jp](mailto:chernob1986@jcom.zaq.ne.jp)

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/chernob1986jimukyoku/>